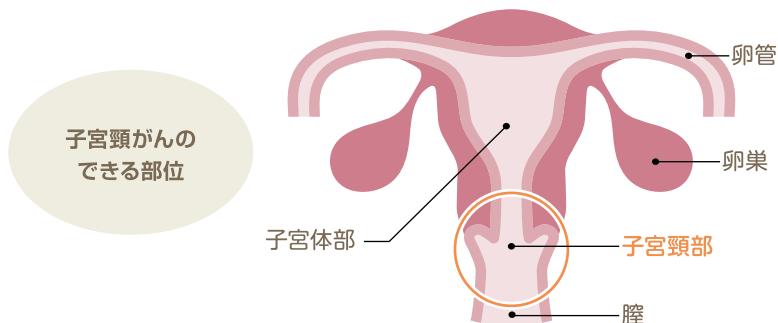


「子宮頸がん」ってどんな病気？

Cervical cancer

近年、39歳以下の日本人女性で子宮頸がんの発病や死亡が増えています。子宮頸がんは、女性なら誰でもかかる可能性のある病気。実は20～30歳代の若い女性に乳がんに次いで多いがんです。

子宮
頸
がん



子宮の入口にできるがんです。
原因やがんになる過程がほぼ解明されており予防する手段があります。

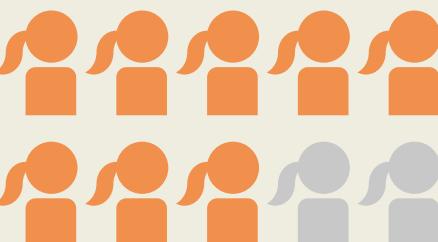
原因はヒトパピローマウイルス (HPV)

子宮頸がんの発症には、その多くにヒトパピローマウイルス (HPV) の感染が関連しているとされています。

HPVは、約80%の女性が生涯のうち一度は感染するごくありふれたウイルスですが、免疫の働きなどで自然に治る人がほとんどです。しかし一部の人で持続感染し、「前がん病変」に、その一部ががんに進行します。

なお、HPVの主な感染経路は性交渉と考えられています。

女性の10人中8人がHPVに感染



おとなになつたら定期的に
検診をうけましょ

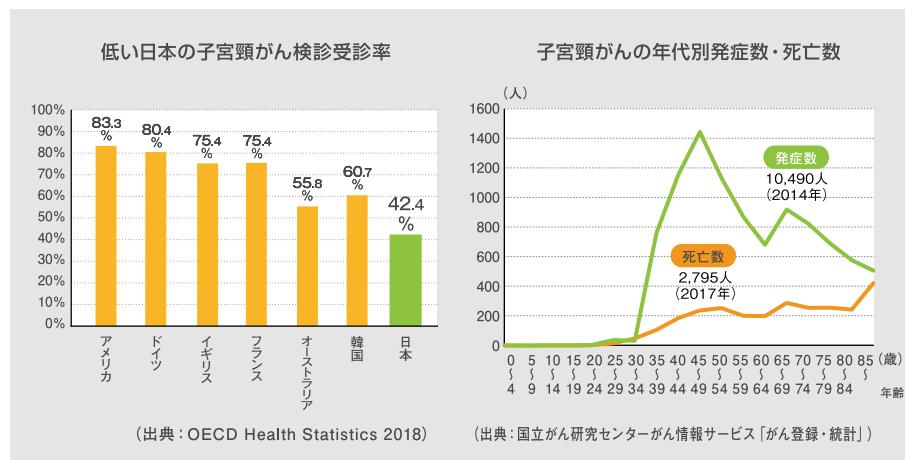
早期に発見すれば・・・

子宮頸がん検診では、がんになる前の「前がん病変」や、ごく初期のがんを高精度に発見できます。

この段階であれば「円錐切除」という狭い範囲の簡単な手術で完治することが多いです。この段階の治療であれば、妊娠や出産も可能です。



先進諸国では約60～80%の女性が受診していますが、日本の女性の受診率は他の先進国に比べると低いです。



予防は検診とワクチンで!

子宮頸がんは検診とワクチンで予防が期待できます。

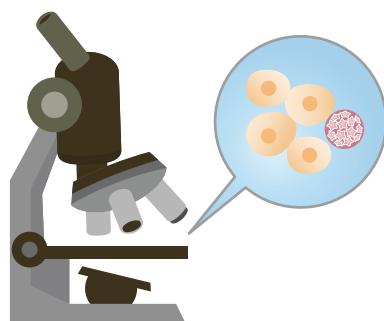
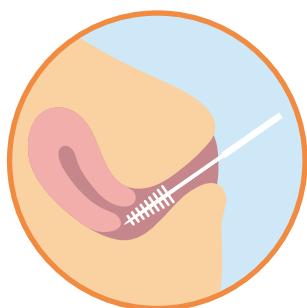
■ 検診の効果

子宮頸がんは、初期の段階ではあまり自覚症状が現れません。おとなになつたら定期的に検診を受けましょう。「前がん病変」なら、子宮を摘出せずに治すことができます。



子宮頸がん

■ 検 診



1 ブラシやヘラで頸部の
細胞をこすりとる

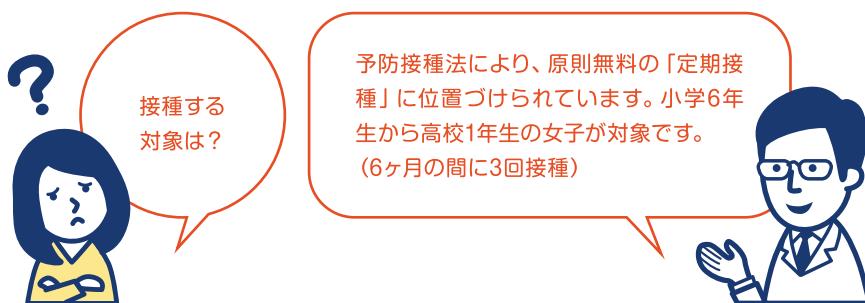
2 顕微鏡で診断
●受診者の1%が前がん病変またはがんの疑い
●さらにこの10%にがんを発見

■ 検診はいつから？

20歳になったら、**2年に1回**定期的に検診を受けましょう。

■ ワクチンの効果

多種類あるHPVの中で子宮頸がんの原因の50%から70%を占める16、18型の感染に対し高い予防効果があるとされています。(感染前に接種される必要があります。)



■ ワクチンの副反応について

子宮頸がん予防ワクチンの副反応については、ワクチン接種の有効性と比較した上で、定期接種を中止するほどリスクが高いとは評価されていませんが、積極的な接種推奨を一時的に差し控えています。定期接種の対象であることには変わりありません。(2019年6月現在)

■ 「子宮頸がんワクチン」に関する情報はこちらから

>>> 厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekakku-kansenshou28/>

